

各地のたより



五月二十九日、宇和島市立結出小学校の全校児童六名を対象に、校庭の樹木学習と樹名板の作製を行いました。この学校で当センターが森林教室を行うのは初めてでしたが、以前に設置した樹名板が古くて文字が見えないなどの理由から、支援要請を受けたものです。

五月二十九日、宇和島市立結出小学校の全校児童六名を対象に、校庭の樹木学習と樹名板の作製を行いました。

この学校で当センターが森林教室を行うのは初めてでしたが、以前に設置した樹名板が古くて文字が見えないなどの理由から、支援要請を受けたものです。

今回の学習は、樹木の名前を調べたり、樹名板を作ったりすることで、校庭に植えられている植物につ



校庭の樹木学習

初めて、針葉樹と広葉樹の違い、単葉と複葉の違い等について、技術普

及課が作製した下敷き「いろいろな木と葉っぱ」を使い説明しました。次に、

校庭の樹木学習では、樹木名とその特徴や用途等について説明し、アジサイは、花を乾燥させたものを解熱剤として用いられること、ナンテンの実には咳止めの薬に利用されていること等約四十の樹種について学習しました。

その後、ヒノキの輪切りに、ポスターカラーで和名と科名を書き、余白には、思い思いのイラストを描いて樹名板を完成させました。

また、児童からは、「ソメイヨシノから種子が出来るのはどうしてか」等の鋭い質問もあり、樹木へ

完成した樹木名板



の関心の深さが感じられました。

今後は、学習したことを基にして、季節の移り変わりによる樹木の変化等を観察してもらいたいと思います。



六月一〇日、高知県土佐清水市立中浜小学校の三〇六年生十六名を対象に校庭の樹木を学習し、樹名板を作製することになり、支援の要請を受けて指導を行いました。



校庭の樹木学習

樹名板作製中



今回の学習は、身近にある校庭の樹木の名前や特徴を調べて、樹名板を作り設置することで、季節の



下敷き「いろいろな木と葉っぱ」

て説明しました。次に、校庭の樹木学習では、樹木名とその特徴や用途等について説明しました。ナンテンの実には咳止めの薬に利用されていること、サツキは旧暦の五月に花が咲くことからその名前が付いていること等、約三〇の樹種について学習しました。その後、

普及課が作製した下敷き「いろいろな木と葉っぱ」で、針葉樹と広葉樹の違い、単葉と複葉の違い等について説明しました。次に、校庭の樹木学習では、樹木名とその特徴や用途等について説明しました。ナンテン

化による樹木の様子を観察し、樹木についてのでの感心を持たせる目的で実施しました。最初に技術

「今後、七月には、「木工クラフト」を行う予定であり、さまざまな学習を通して樹木や自然、森林等についての興味や理解が深まることを期待しています。」

最後に今日の感想の中で、「校庭の樹木の名前がわかったので良かった。」「今後の研究課題として樹木を見守っていききたい。」

ヒノキの輪切り材に、ポスターカラーで和名と科名を書き、余白には、思い思いのイラストを描いて樹名板を完成させました。そして、一人ずつ、自分が担当した樹木に取り付けていきました。

ボランティア作業の様子



五月二五日、屋島国有林の「源平屋島の森」において、高松市立屋島東小学校、地元自治会、ボランティア団体等から約一三〇名の協力を得て、森林ボランティア



当日は、朝から日差しが強くとっても暑い日でしたが、子供たちの元気な声に励まされ、また、このボランティア作業に毎年参加されている方も多いことから手際よく作業が進められ、約一時間半程度で終えることができました。

この行事は、例年下草刈

ア作業を行いました。このボランティア作業は、「森林」の大切さを肌で感じていただき屋島の美しい自然を維持することを目的に、毎年五月に実施しているもので、今回の作業では、植栽木（ヤマザクラ、イロハカエデ、クヌギ等）周辺の下草刈りと、植栽木に巻きついたクズ等のつる切りを行いました。

り中心のボランティア作業となつていますが、当所としては地域の要望等を聞く中で、作業内容にも工夫を凝らしつつ、今後も郷土の自然豊かな屋島をフィールドとしたボランティア活動を通じて国有林のPRに努めていきたいと考えています。



作業後、木陰での休憩のひととき



五月二十五日、香川県高松

市の「高松中央ロータリークラブ」及び地元、高知県土佐町の「ふるさとの森を育む会」のみなさんと、遊々の森として高知県土佐町と協定を締結している「いなむら体験の森」で下草刈りのボランティア活動を実施しました。

当地は「ふるさとの森を育む会」が平成一八年からサクラやツツジ等の植樹活動を実施している箇所であり、下草刈りを毎年、実施しております。当日は天気

下草刈りのボランティア作業



も良く、少々暑さを感じる気温でしたが、朝早く高松市を出発された六二名の皆さんに草刈りの体験で汗を流して頂きました。参加された皆さんは普段鎌を使う機会が少ないため、のこぎりのように、「ゴシゴシ」引く人もいるなど、なかなか草が思うように切れずに苦勞していました。また、

場所が少し傾斜地で足下が不安定な所もありましたが、全員がケガも無く、約二時間ほどで作業を終了しました。昼食時に、「ふるさとの森を育む会」の方から大鍋の「猪鍋」が振る舞われ、「珍しくておいしい」との感想が多くの方々から聞かれました。年に一度の活動ですがいろいろな職種の方が花や樹木等にふれあい、興味を持って頂く事で、森

林が持つ様々な機能を全身で感じてもらう絶好の機会です。今後も長く続けてもらうために、当署としてもできるだけの協力をしたいと思えます。

頂く事で、森



ボランティア作業に参加された皆様



五月一日、高知県と徳島県境に位置する三嶺の南斜面の西熊山国有林三七林班イ小班内、通称「カヤハゲ」及び別府山国有林五五林班イ小班内「白髪避難小屋」周辺において、「三嶺の森をまもるみんなの会」の協力を得て、ボランティアによるシカ被害防止対策を実施しました。



遠方からの、植生回復用ネットの設置状況

加え、局署から一五名の職員の参加を得るなど、総勢一五〇名（一二班編成）の方々に協力をいただきました。

今回は、ニホンジカの食害等によって裸地化し土壌浸食が見られる斜面の土砂流出を防止し、植生の回復

を図ることを目的として、植生回復用ネットを設置するとともに、既設の防護柵の補修を行ったものです。

斜のアップダウンのある登山道を一時半移動するなど、厳しい条件での作業で

よく作業をこなし、予定した以上の成果をあげることができました。作業は午後二時に終了し

下山しましたが、途中、作業地を一望できる箇所では、やり遂げた達成感と満足に満ち溢れた表情で、しばし出来上がりを確認する参加者がいたことが印象

したが、当署の鶴内森林技術指導官の丁寧な説明と職員サポートにより、参加者は慣れないハンマーの使用に苦労しつつも段取り

ボランティアによる植生回復用ネットの設置



緊密に連携し、一般の方々の方々の協力を得て、三嶺周辺のニホンジカによる食害防止と植生回復等自然環境の維持に取り組んでいく考えです。

